ご存知ですか？農作物や園芸施設（ハウス）の保険があるんです!!!

建物の火災保険や地震保険、自動車の任意保険、最近ではゴルファー保険等、「もしものときの備え」として、保険制度が幅広く活用されています。

これからご紹介する「農業共済制度」は、農家の「もしも・・・」に備える心強い保険制度です。

沖縄県の台風被害

沖縄は台風の常襲地帯で、過去5年で33個の台風が接近しています。特に近年は、台風による被害も大きく、農作物および農業施設の被害額は、平成23年約71億円、平成24年約28億円と大きな額となっています。

被災農家は、作物の収穫量が減ってしまうだけでなく、被災施設の修繕にも多額の出費が必要になるなど、収益が減り、経営が圧迫されてしまいます。

被災農家を支える農業共済制度

農業共済制度は、他の保険の仕組みと同様、「加入者（農家）が掛金を出し合って共同準備財産を作り、災害による損害が発生したときに共済金（＝保険金）の支払いを受ける」という仕組みです。

国の農業災害対策の一環であり、共済掛金の一部を国が負担（共済掛金＝国の負担分＋農家負担分）する等、公的な保険制度として全国で共済事業が実施されています。

台風によるさとうきびの被害

本県では、沖縄県農業共済組合により、農作物（水稲）共済、家畜共済、畑作物（さとうきび）共済、園芸施設共済、任意共済の5つの共済事業が行われており、加入農家の安定経営を支えています。

沖縄型農業共済推進事業って何？

県は、共済加入率を改善し、台風等の自然災害の影響により高負担となっている共済掛金率を全国並とするため、「沖縄型農業共済制度推進事業」により、沖縄県農業共済組合が行う普及推進事業等を支援しています。

平成25年度事業としては、畑作物共済加入農家、園芸施設共済加入農家を対象に、高い共済掛金率の農家負担軽減のための営農資材購入補助、損害防止技術の普及啓発等が実施されています。

台風による園芸施設の被害

沖縄型農業共済制度推進事業

沖縄県農業共済組合実施事業の主なメニュー

◆共済目的に使用する営農用資材（除草剤、ハウスネット等）購入や農作業委託料（ハーベスターによる収穫作業等）の支援

対　象	さとうきび共済加入者	園芸施設共済加入者
支援金限度額	加入時の農家負担掛金の約2割	加入時の農家負担掛金の約6割

◆損害防止技術の普及啓発による、自然災害に強い営農活動の支援

支援内容、共済加入の問い合わせ先

本所（浦添市）　☎098-860-3450
北部支所（名護市）　☎0980-52-4082
中南部支所（南城市）　☎098-945-3293
宮古支所（宮古島市）　☎0980-72-4724
八重山支所（石垣市）　☎0980-82-4780

お問い合わせ　県糖業農産課　電話:098-866-2275　県農業共済組合URL　http://www.nosai-okinawa.jp/

まちあるき

沖縄本島でいちばん小さなまち、与那原町。有名な大綱曳をはじめ、山原船が着く港町として賑わった歴史など、知るほどに面白い与那原のまちを歩いてみましょう。

与那原町

与那原といって真っ先に思いつくのは「与那原大綱曳」という方も多いのではないでしょうか。400年以上の歴史を誇り、那覇・糸満とならんで沖縄県の三大綱ひきのひとつに挙げられる勇壮な大綱曳、今年は8月4日（日）に行われます。まちあるきでは、大綱曳を行う前に祈願する拝所や、カナチ棒が保管されている意外な場所なども訪れます。

また、琉球王朝時代に神女（ノロ）の最高位である聞得大君（キコエオオキミ）が行った聖地巡礼の行事、東御廻り（アガリウマーイ）で訪れた拝所や、与那原発祥ゆかりの地、かつて本島北部からの山原船が経由した港町として栄えた歴史など、ガイドの話に耳を傾けながら、今も暮らしの中に根付いている名所を訪れます。他にもユニークな石獅子に出会ったり、まちで人気のスイーツの店を教えてもらったりと、見て、聞いて、歩いて楽しい！与那原まちあるきを体験しませんか。

1 町民の交流の場であるコミュニティーセンターに集まり、簡単なストレッチをして出発！国道329号にかかる歩道橋から、まちが一望できます。

2 かつてこの地に御殿が建てられ、東御廻りや国王と聞得大君の久高島参詣の際にも休憩地として利用していました。

3 綱曳資料館の前の広場にある親川は、東御廻りの巡礼地で、天女が産湯に使ったという伝説が残る神聖な湧き水です。敷地内には大綱曳に使うカナチ棒を水に浸して保管しています。（写真左）

4 民家の敷地内にある拝所。与那原の地を開墾したとされる人物とその一門を祀っています。また竿之増は「宗之増」と表記されることもあります。

5 竿之増一族に協力して与那原発祥に尽力した人物を祀った拝所。大綱曳の東の練習場所になっています。ちなみに西は親川で行います。

6 与那原に7体ある石獅子のひとつ。村落を守るために作られたという石獅子、木が頭にあたっていて思わず「痛くない？」と聞きたくなります。

7 材木店が並ぶ通り。かつて、本島北部から材木などを積んだ「山原船」（ヤンバルセン）の中継港として栄えた場所でした。

8 口が開いているのでオス。材木が多かったので火事から村落を守るために、もう一体のメスと対でたてられたそうです。

与那原まちあるき

コース　与那原町字与那原ほか
実施曜日　通年（3日前まで要予約／2名～実施）
料　　金　1,575円／1名
所要時間　1時間30分

お問合せ先　NPO法人 自然体験学校 沖縄校
電話番号　098-998-0330
URL　http://shizentaiken.com/okinawa.html

＊地図に記された以外にもポイントがあります。詳しくはまちあるきしてのお楽しみ。